

令和5(2023)年度

かわさき市民アンケート概要版



COLORS, FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th

2024年、川崎市は市制100周年



調査目的等

調査目的	市民の定住状況、市政に対する評価と要望などの継続的に行ってきた調査に加え、いくつかのテーマについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的に実施
調査経緯	昭和 50（1975）年度から毎年 1 回実施していた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するために、調査回数を年 2 回に拡充し、名称を変更して平成 18 年（2006）年度から実施することとしたもの
調査地域	川崎市全域
調査対象	川崎市在住の満 18 歳以上の個人

調査方法等

	第 1 回アンケート	第 2 回アンケート
調査方法	インターネット調査	郵送調査
標本抽出	インターネットモニター登録者から抽出	住民基本台帳からの層化無作為抽出
標本数	1, 500 標本回収まで	3, 000 標本
有効回収数	1, 500	1, 491
有効回収率		49.7%
調査期間	令和5年8月25日（金）から 9月5日（火）まで	令和5年10月31日（火）から 12月8日（金）まで
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・自転車の利用状況及び自転車走行ルール等の認識について・文化芸術について・特別市（特別自治市）について・新型コロナウイルス感染症について	<ul style="list-style-type: none">・定住状況について・生活環境の評価について・関心ごとと行動範囲について・市政に対する評価と要望について・川崎市の都市交通について・川崎市が発行する説明資料・広報等の新しい体裁について・新型コロナウイルス感染症について

※表中の「百分率」は小数点第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100 にならない場合や、複数の項目の数値の合計が本文中の数値と一致しない場合があります。

※当冊子は、調査結果の一部を抜粋したものです。各設問の番号は、調査票と同じ設問番号を記載しています。

※インターネット調査は、対象者を母集団から無作為抽出しているものではないため、回答者の属性に偏りが出ます。回答傾向から課題を発見するプリテストに適した調査方法です。

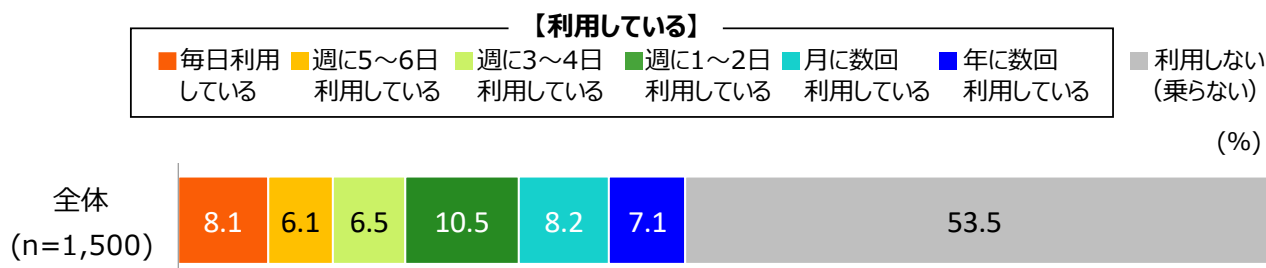
1 自転車の利用状況及び自転車走行ルール等の認識について

1 自転車の利用状況

Q 1. あなたは自転車を利用していますか。

「利用しない（乗らない）」が53.5%と5割を超えている。「毎日利用している」から「年に数回利用している」を合計した【利用している】は46.5%であり、その中には「週に1～2日利用している」が10.5%と最も高い。

【図表 1】自転車の利用状況

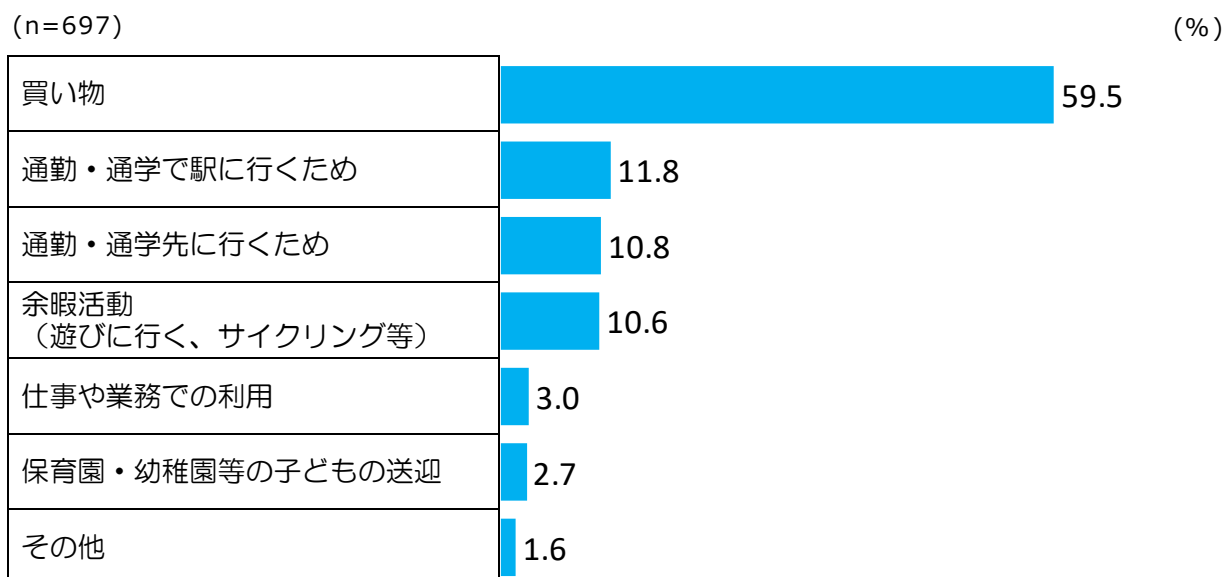


2 自転車の主な利用目的

Q 2. あなたが自転車を最も利用する目的は何ですか。

自転車を利用している人に主な利用目的についてたずねたところ、「買い物」が59.5%と最も高く、次いで「通勤・通学で駅に行くため」(11.8%)、「通勤・通学先に行くため」(10.8%)、「余暇活動(遊びに行く、サイクリング等)」(10.6%)と続いている。

【図表 2】自転車の主な利用目的



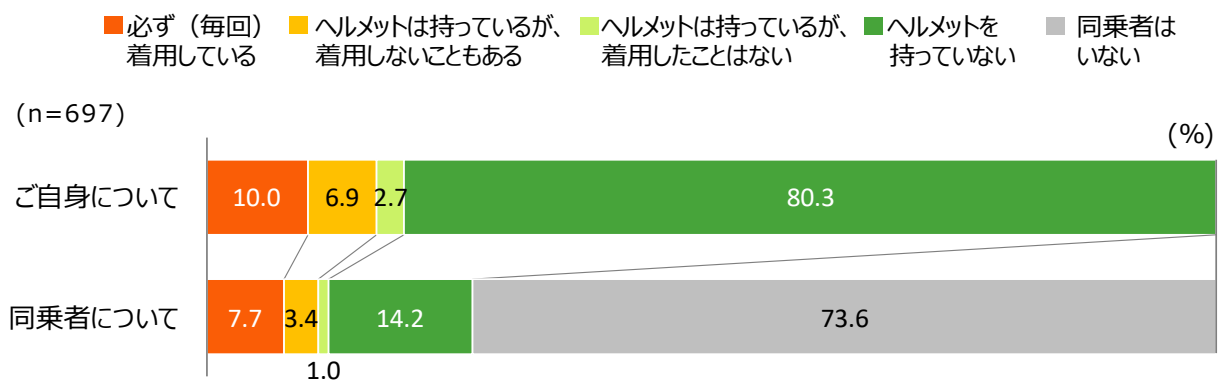
3 ヘルメットの着用状況

Q4. あなたは、自転車乗車時にヘルメットを着用していますか。同乗者（子ども）がいる場合には、同乗者の状況についてもお答えください。

自転車を利用している人にヘルメットの着用状況についてたずねたところ、自身については、「ヘルメットを持っていない」（80.3%）が約8割を占め、次いで「必ず（毎回）着用している」が10.0%、「ヘルメットは持っているが、着用しないこともある」が6.9%、「ヘルメットは持っているが、着用したことはない」が2.7%であった。

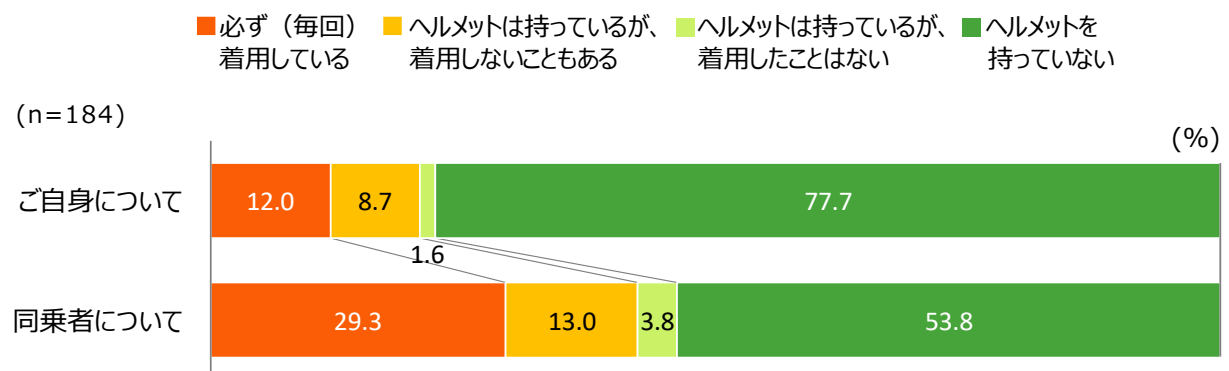
同乗者については、「ヘルメットを持っていない」が14.2%、「必ず（毎回）着用している」が7.7%、「ヘルメットは持っているが、着用しないこともある」が3.4%、「ヘルメットは持っているが、着用したことはない」が1.0%であった。

【図表 3】 ヘルメットの着用状況



「同乗者がいる」回答者のみ（「同乗者はいない」回答者以外）で見ると、「必ず（毎回）着用している」は、自身については12.0%、同乗者については29.3%となっており、自身よりも同乗者に着用させている割合が高くなっている。

【図表 4】 ヘルメットの着用状況 《「同乗者がいる」回答者》

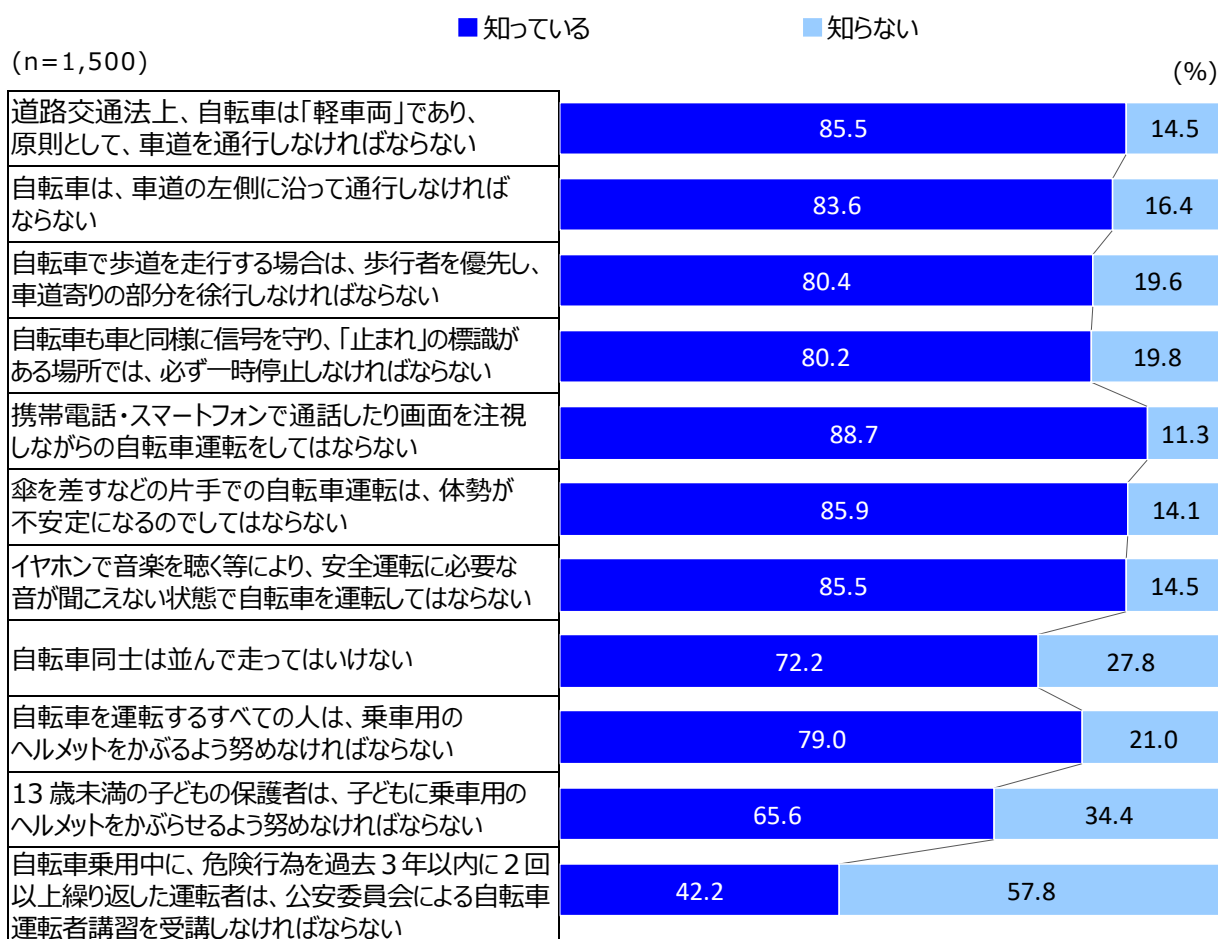


4 自転車利用に関する交通ルールの認知状況

Q7. あなたは、次の自転車利用に関する交通ルールを知っていますか。

自転車利用に関する交通ルールについては、「知っている」の割合は「携帯電話・スマートフォンで通話したり画面を注視しながらの自転車運転をしてはならない」が88.7%と最も高く、「13歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない」(65.6%)、「自転車乗用中に、危険行為を過去3年以内に2回以上繰り返した運転者(14歳以上)は、公安委員会による自転車運転者講習を受講しなければならない」(42.2%)を除いた項目で、7割以上の認知率(「知っている」の割合)となっている。

【図表 5】自転車利用に関する交通ルールの認知状況

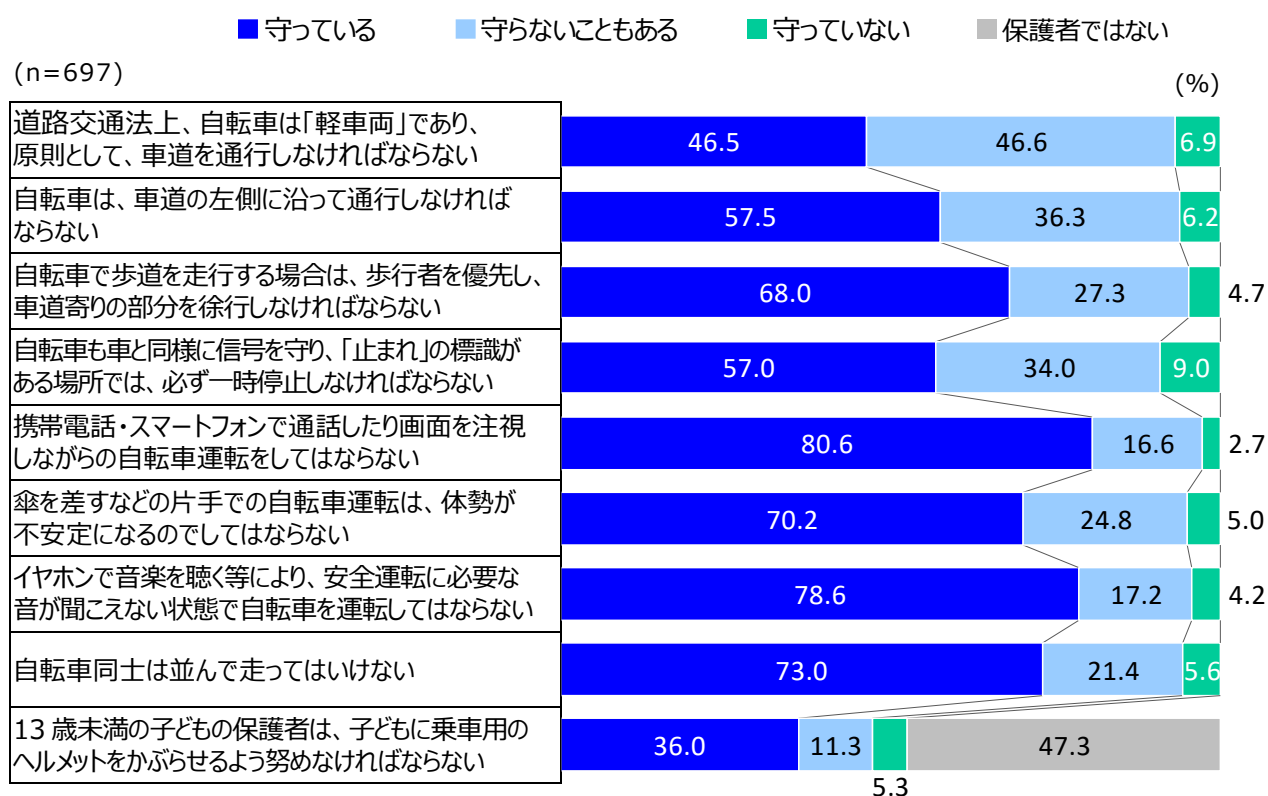


5 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況

Q8. あなたは、次の自転車利用に関する交通ルールを守っていますか。

自転車を利用している人に自転車利用に関する交通ルールを守っているかたずねたところ、「守っている」の割合は「携帯電話・スマートフォンで通話したり画面を注視しながらの自転車運転をしてはならない」が80.6%と最も高く、「イヤホンで音楽を聴く等により、安全運転に必要な音が聞こえない状態で自転車を運転してはならない」(78.6%)も8割近くとなっている。一方で、「道路交通法上、自転車は「軽車両」であり、原則として、車道を通行しなければならない(歩道を通行できるのは例外)」については5割を超える人が「守らないこともある」または「守っていない」と回答している。

【図表 6】 自転車利用に関する交通ルールの遵守状況



※「保護者ではない」の選択肢は「13歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない」のみ設定

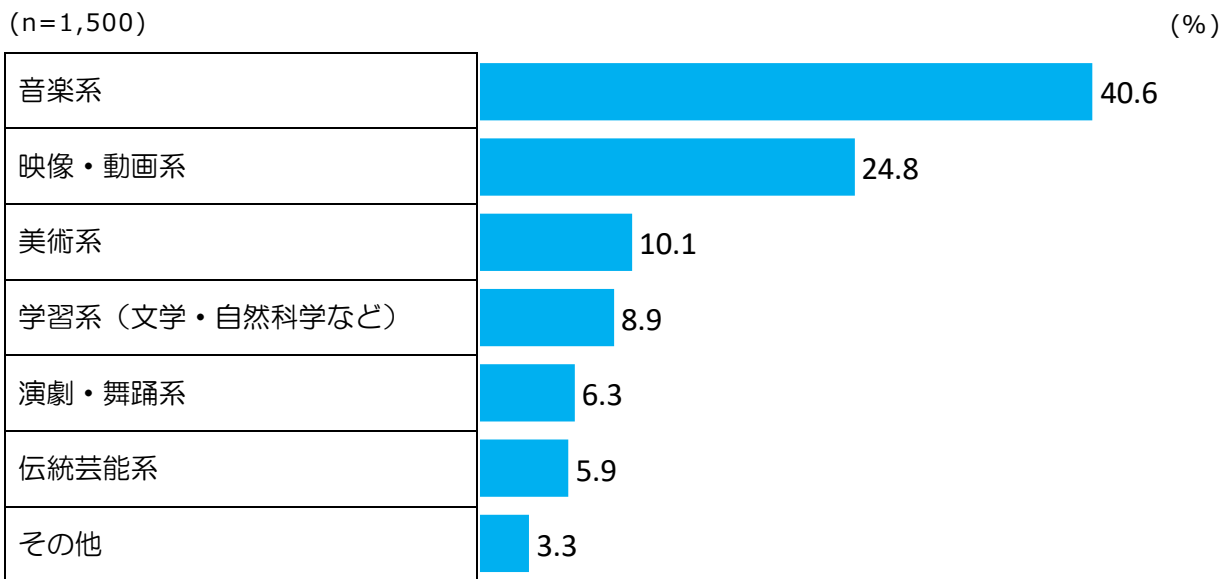
2 文化芸術について

1 興味を持っている芸術文化活動のジャンル

Q12. あなたが、次の芸術文化活動のジャンルの中で最も興味があるものを1つ選んでください。

最も興味があるジャンルについては、「音楽系」が40.6%と最も高く、次いで「映像・動画系」(24.8%)、「美術系」(10.1%)、「学習系(文学・自然科学など)」(8.9%)と続いている。

【図表 7】最も興味のある芸術文化活動のジャンル



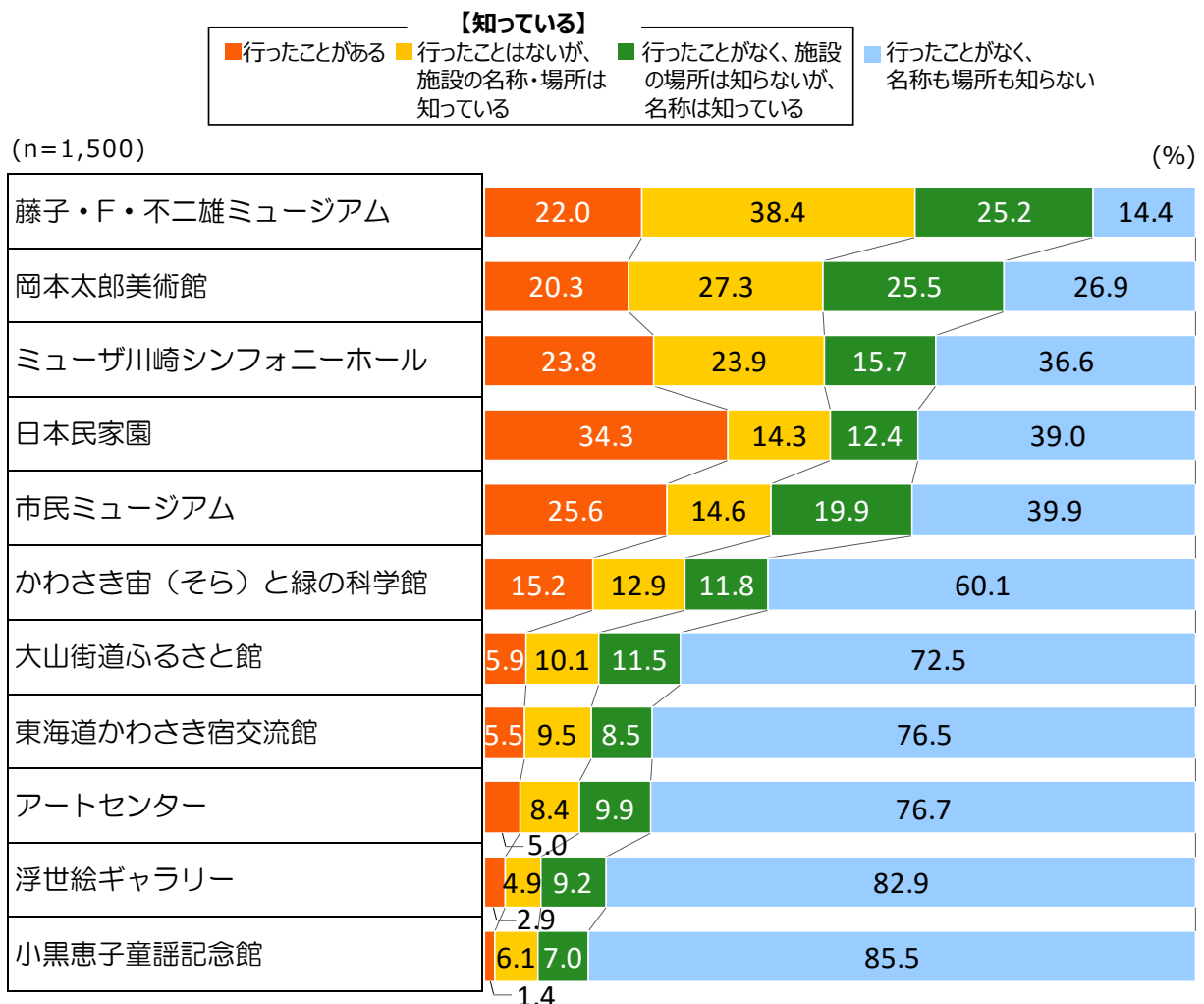
2 川崎市文化施設の認知・利用状況

Q14. 川崎市には文化施設が多くありますが、次の施設にあなたは行ったことがありますか。行ったことがない場合には、名称や場所について知っているかお答えください。

「行ったことがある」、「行ったことはないが、施設の名称・場所は知っている」、「行ったことがなく、施設の場所は知らないが、名称は知っている」を合計した【知っている】の割合は、「藤子・F・不二雄ミュージアム」が85.6%と最も高く、次いで「岡本太郎美術館」（73.1%）、「ミュージア川崎シンフォニーホール」（63.4%）、「日本民家園」（61.0%）、「市民ミュージアム」（60.1%）と続いている。

「行ったことがある」文化施設では、「日本民家園」が34.3%と最も高く、次いで「市民ミュージアム」（25.6%）、「ミュージア川崎シンフォニーホール」（23.8%）、「藤子・F・不二雄ミュージアム」（22.0%）と続いている。

【図表 8】川崎市文化施設の認知・利用状況



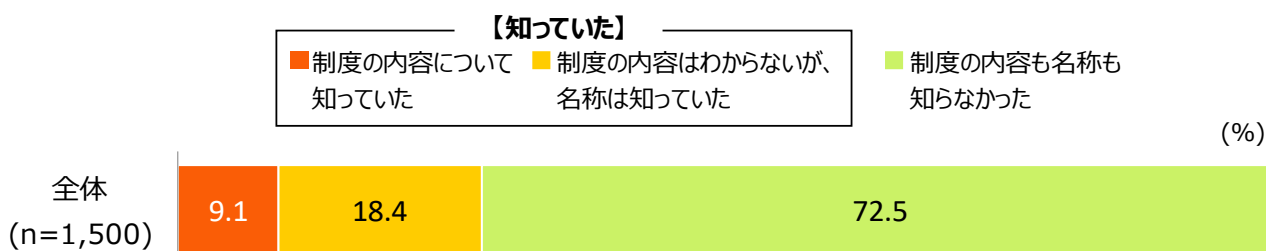
3 特別市(特別自治市)について

1 「特別市(特別自治市)」の認知状況

Q16. 川崎市は、県の区域外となり、権限と財源を市に一本化する「特別市(特別自治市)」制度の実現を目指しています。あなたは、「特別市(特別自治市)」について知っていましたか。

「制度の内容について知っていた」(9.1%)と「制度の内容はわからないが、名称は知っていた」(18.4%)を合計した【知っていた】は27.5%であった。

【図表 9】「特別市(特別自治市)」の認知状況

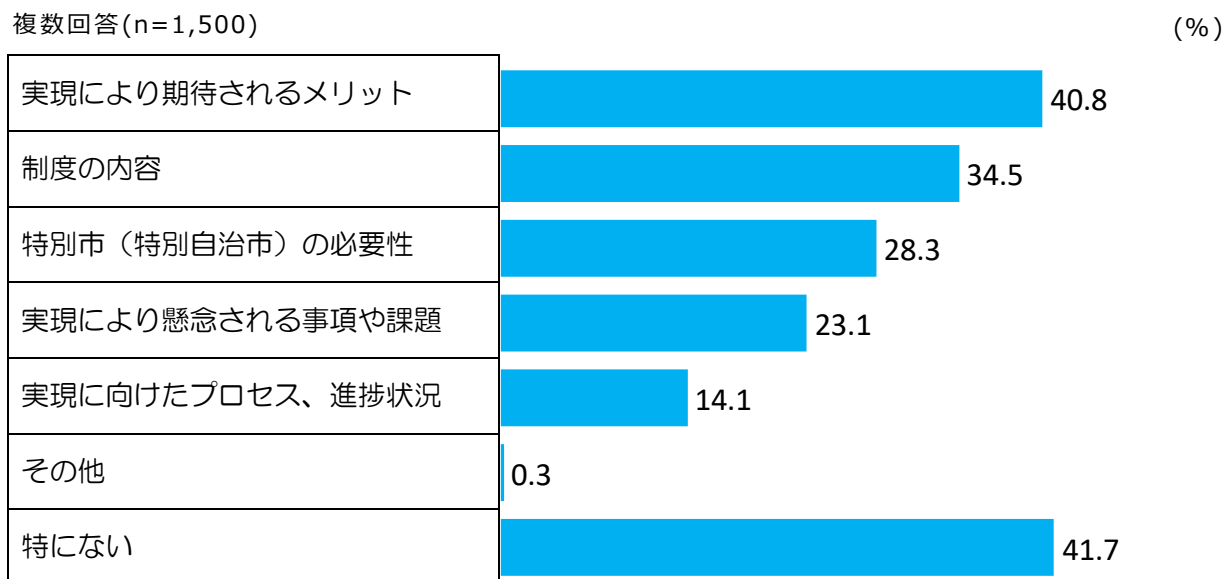


2 「特別市(特別自治市)」について知りたいこと

Q18. 「特別市(特別自治市)」について、知りたいことを教えてください。

「実現により期待されるメリット」(40.8%)、「制度の内容」(34.5%)、「特別市(特別自治市)の必要性」(28.3%)と続いている。一方、「特にない」が41.7%と最も高くなっている。

【図表 10】「特別市(特別自治市)」について知りたいこと(複数回答)

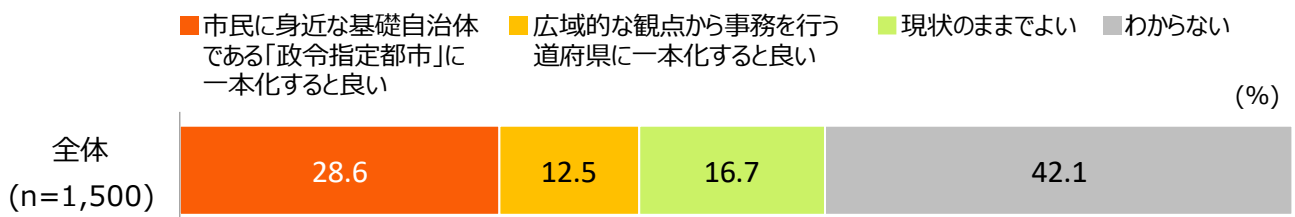


3 取組や事務の一本化について

Q20. 「政令指定都市」と道府県で同じような内容の取組や事務を実施していることがあります。今後このような事務をどちらか一方にまとめるとしたら、あなたはどちらに一本化するとよいと思いますか。

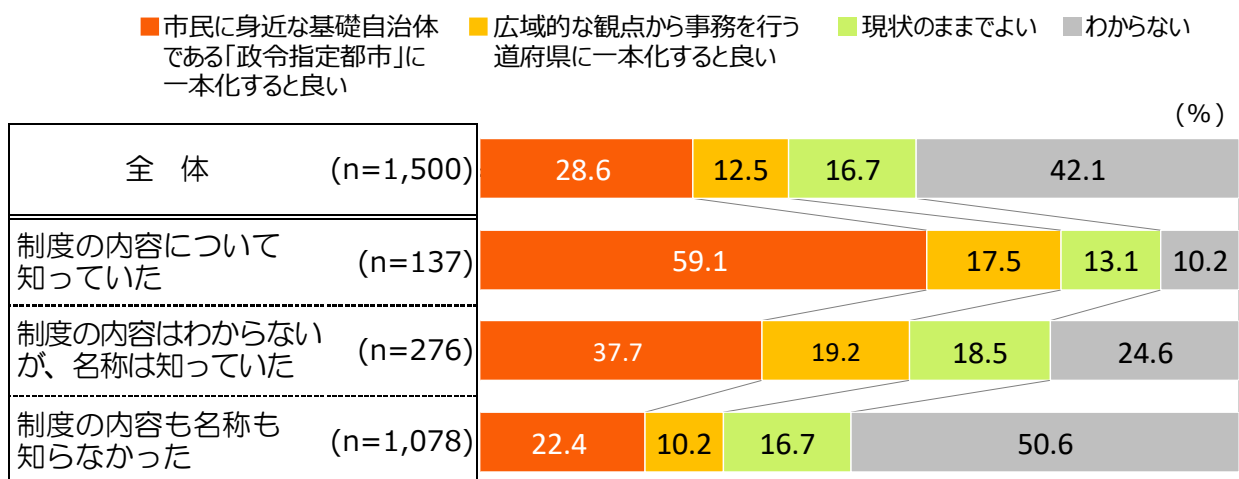
「市民に身近な基礎自治体である「政令指定都市」に一本化すると良い」(28.6%)、「現状のままでよい」(16.7%)、「広域的な観点から事務を行う道府県に一本化すると良い」(12.5%)と続いている。一方、「わからない」が42.1%と最も高くなっている。

【図表 11】取組や事務の一本化について



「特別市（特別自治市）」の認知状況別に見ると、制度について知っている人ほど「市民に身近な基礎自治体である「政令指定都市」に一本化すると良い」の割合が高くなっており、「制度の内容について知っていた」と回答した人では約6割となっている。

【図表 12】取組や事務の一本化について（「特別市（特別自治市）」の認知状況別）



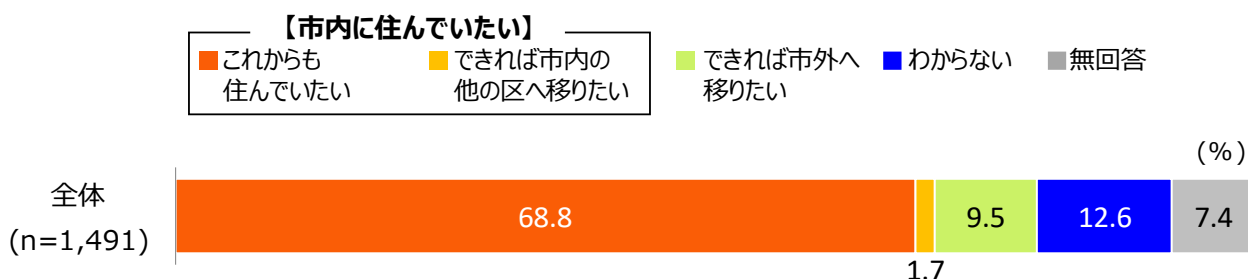
4 定住状況について

1 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

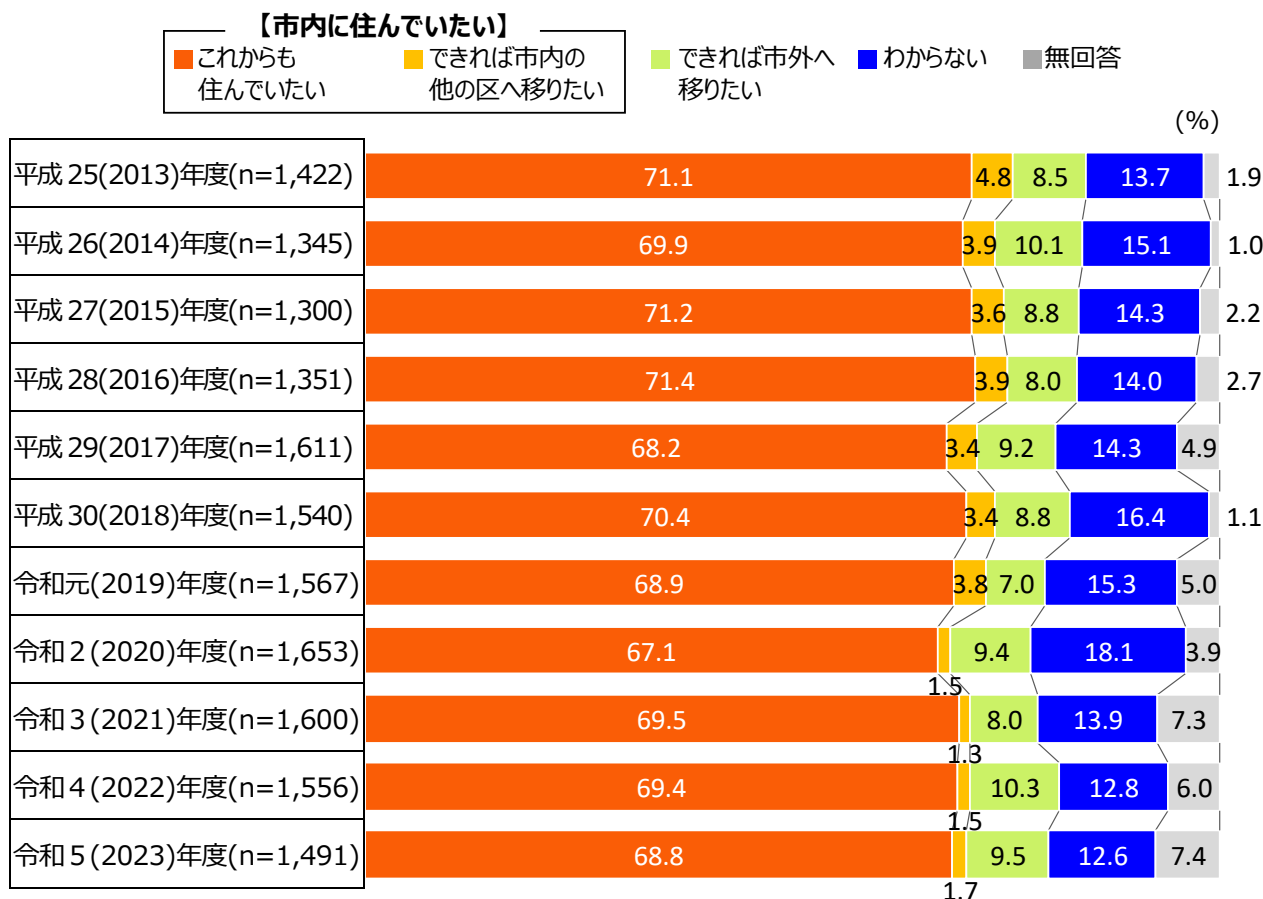
「これからも住んでいたい」(68.8%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(1.7%)を合計した【市内に住んでいたい】は70.5%であった。「できれば市外へ移りたい」は9.5%であった。

【図表 13】定住意向



この10年間において、「これからも住んでいたい」は70%前後で推移しており、大きな変化は見られない。

【図表 14】定住意向（経年比較）



※令和2年度までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施

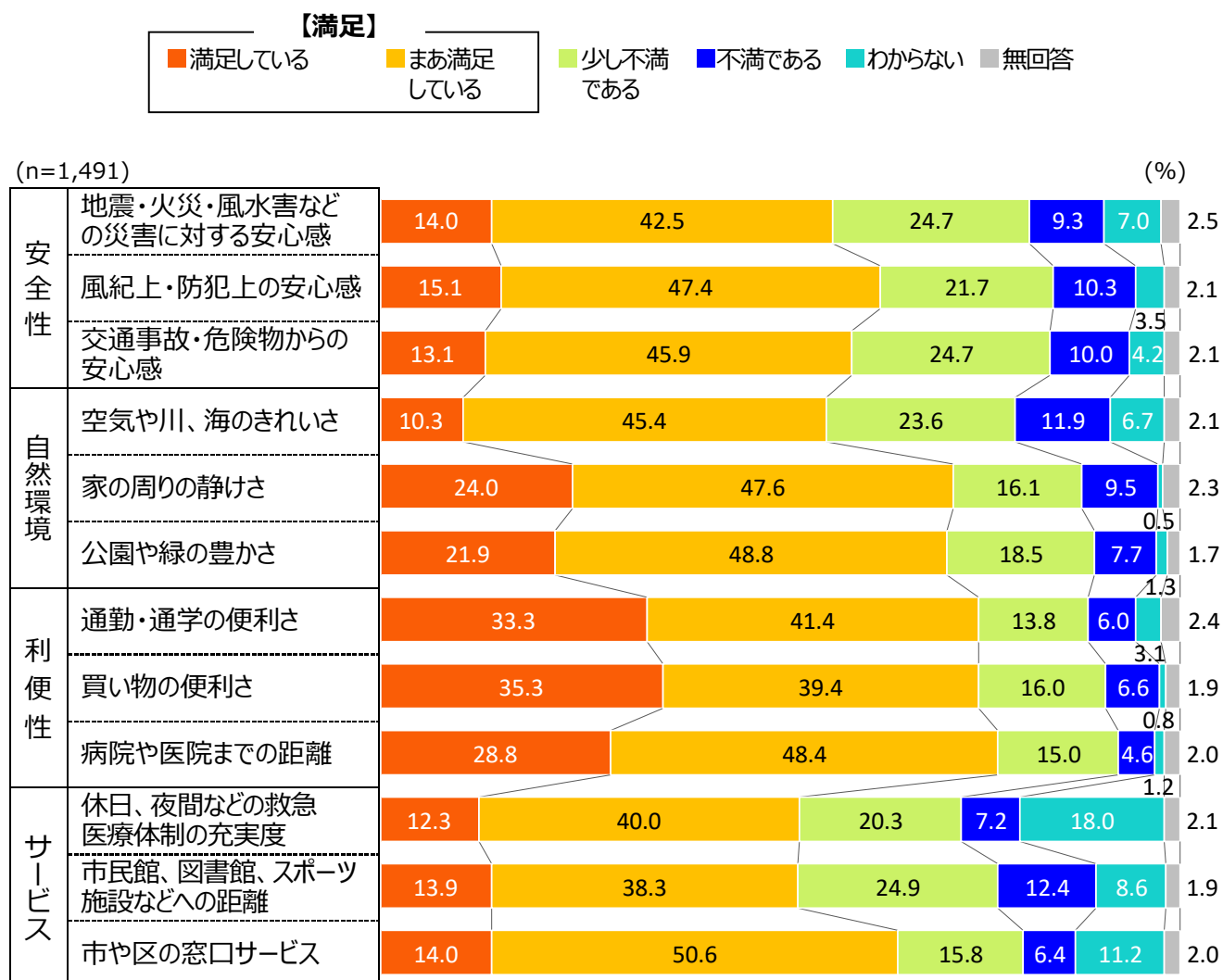
5 生活環境の評価について

1 生活環境の満足度

問5. お住まいの周りの生活環境についていかがいます。あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目が高く、「病院や医院までの距離」(77.2%)、「通勤・通学の便利さ」、「買い物の便利さ」(ともに74.7%)が7割台半ばとなっている。一方、『サービス』の項目の「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」(52.2%)と「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(52.3%)は【満足】が5割台前半と、他の項目と比較して低い。

【図表 15】生活環境の満足度

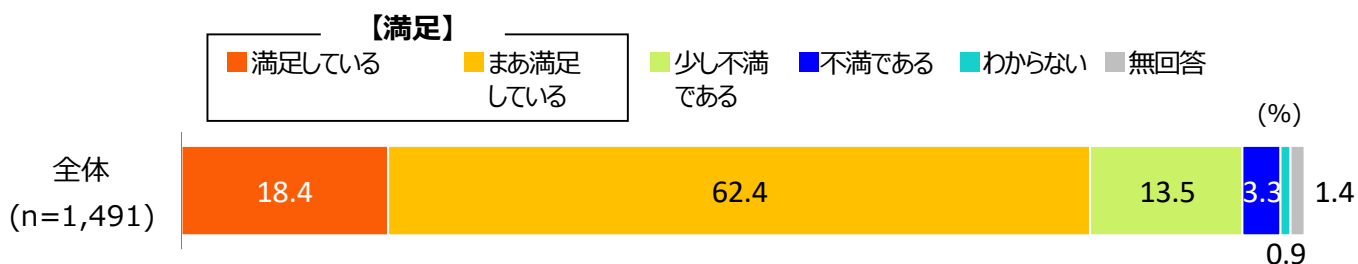


2 総合的な生活環境の満足度

問6. あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

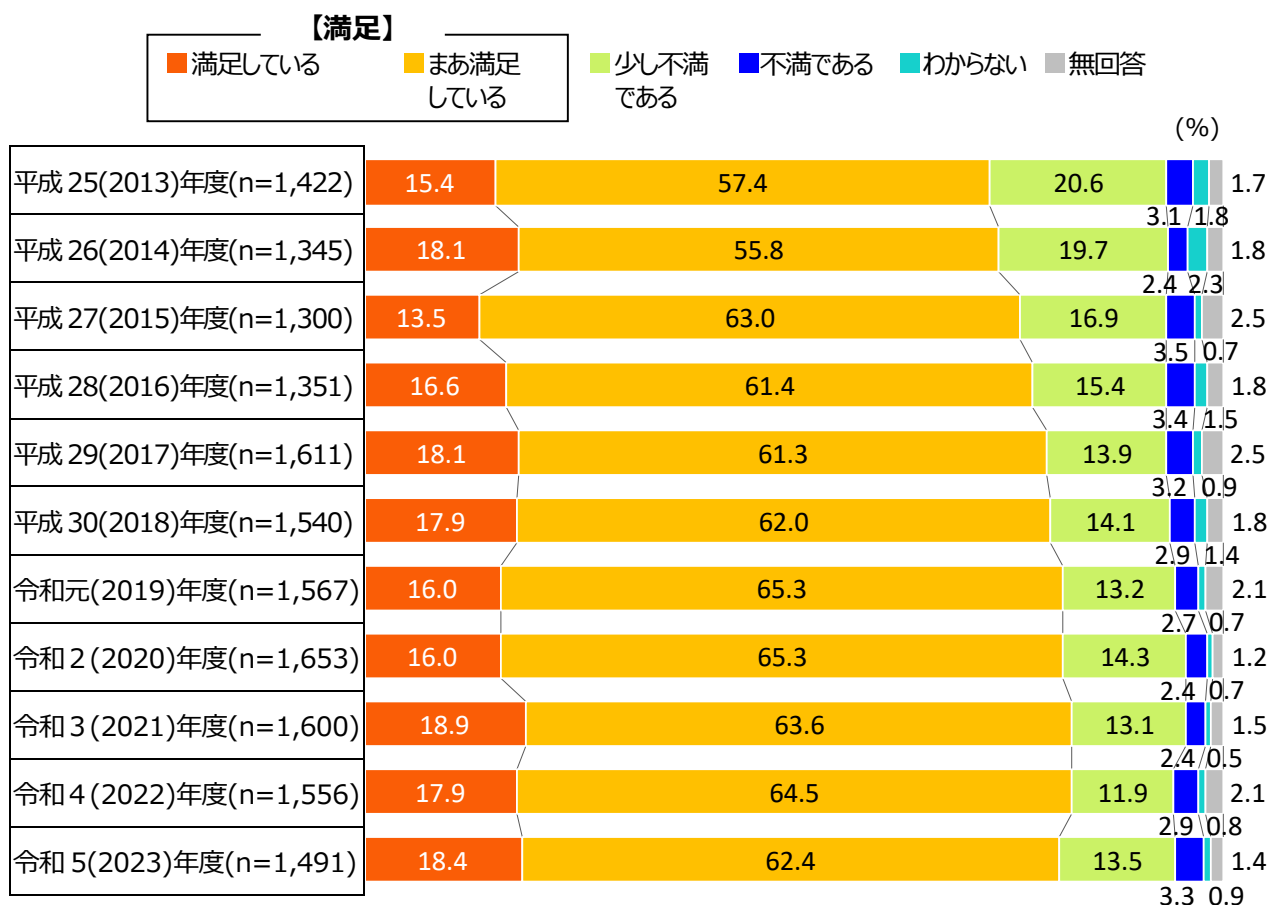
「満足している」(18.4%)と「まあ満足している」(62.4%)を合計した【満足】は80.8%であった。

【図表 16】総合的な生活環境の満足度



過去の調査結果と比較すると、【満足】は、令和元(2019)年度以降ほぼ横ばいで推移しているが、10年前(平成25年度)と比較すると8.0ポイントの増加となっている。

【図表 17】総合的な生活環境の満足度(経年比較)



6 市政に対する評価と要望について

1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

「日常のごみ収集やリサイクル」(49.9%)が最も高く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(33.4%)、「水道水の安定供給」(29.7%)と続いている。

【図表 18】 市政の仕事でよくやっていると思うこと《上位 25 項目》(複数回答)

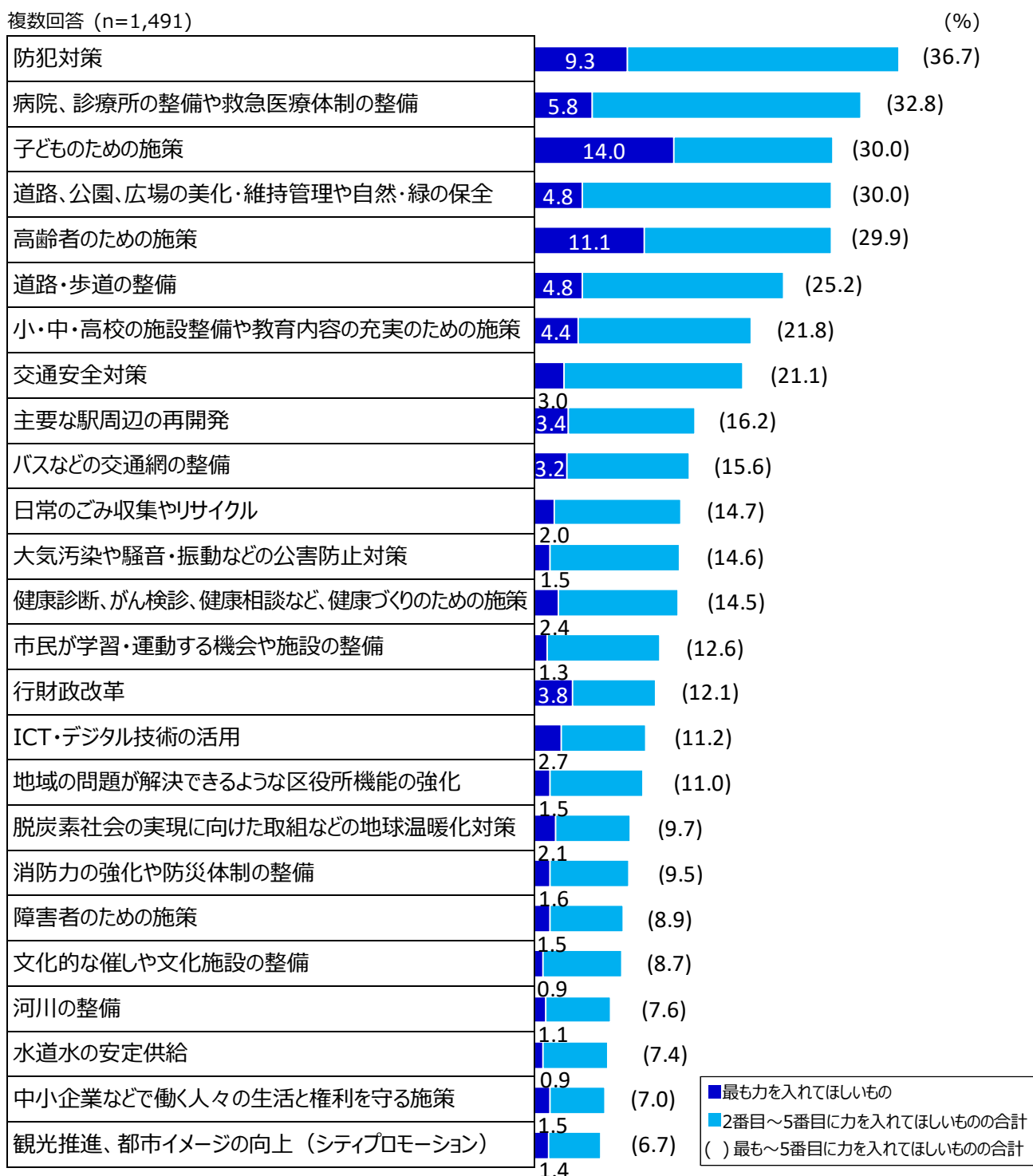


2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問 10. 問 9 の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。最も力を入れてほしいものから、順に 5 つ選んでください。

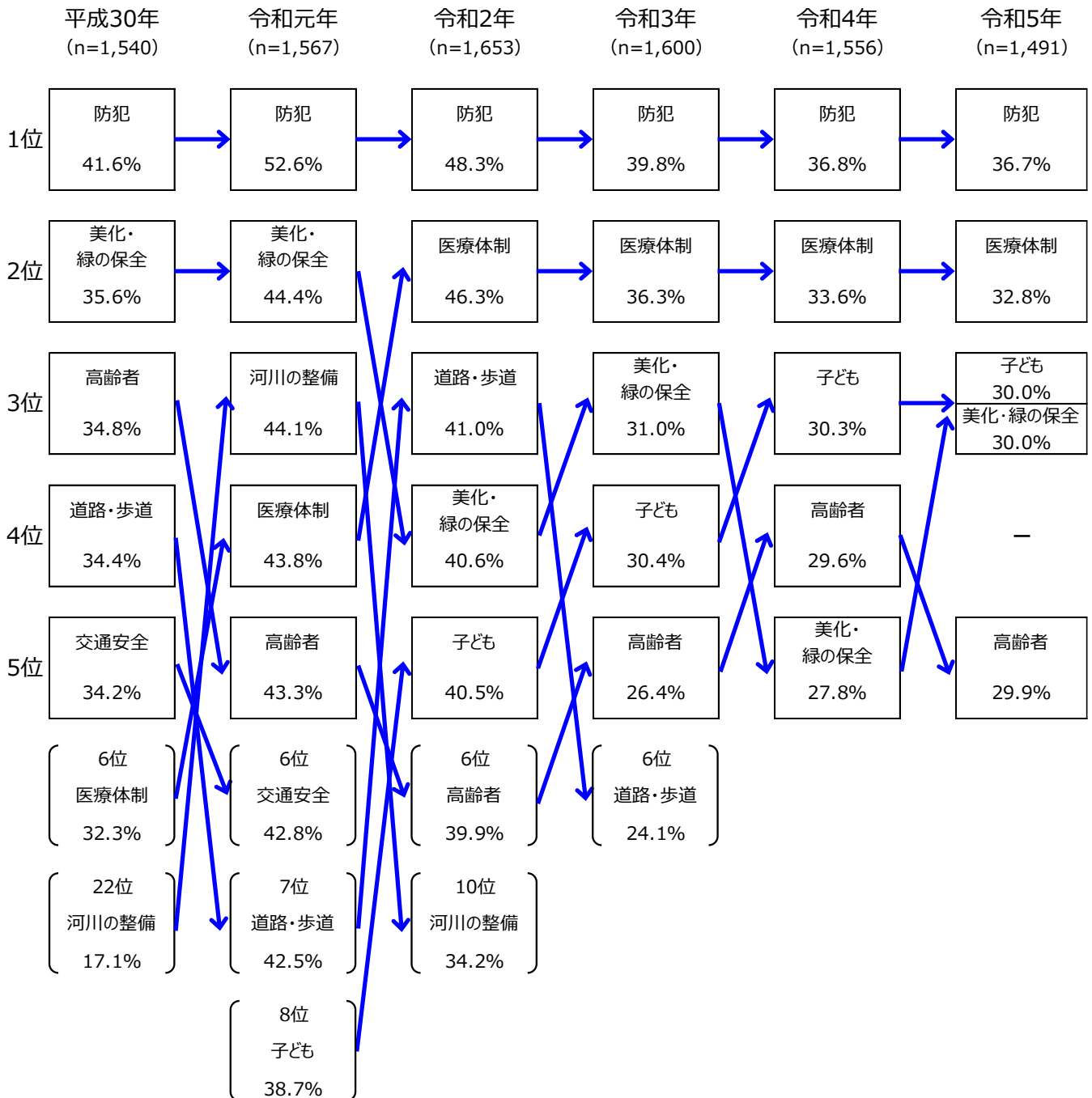
「最も力を入れてほしいもの」～「5 番目に力を入れてほしいもの」の合計では「防犯対策」(36.7%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(32.8%)、「子どものための施策」「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」(ともに 30.0%) の順であるが、「最も力を入れてほしいもの」だけで見ると、「子どものための施策」(14.0%) が最も高くなっている。

【図表 19】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと《上位 25 項目》(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「防犯対策」は全て1位で、上位5位は令和3年度以降同じ項目となっている。

【図表 20】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）
（過去の調査の上位5項目推移）



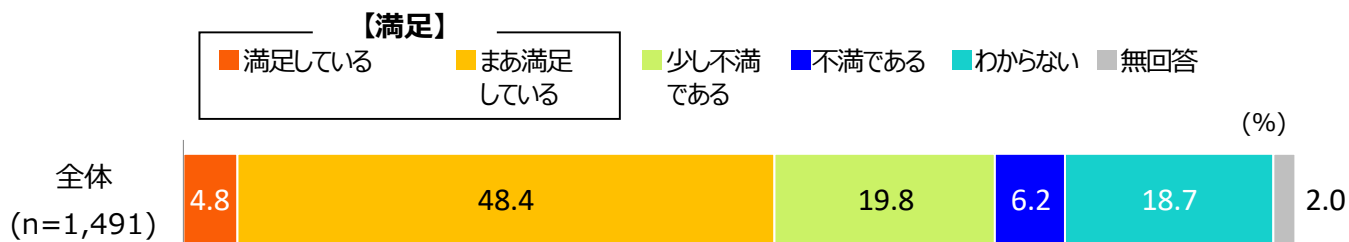
※令和2年度までは選択肢に制限を設けない複数回答にて実施

3 施策や事業の総合的な満足度

問 11. あなたは、川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

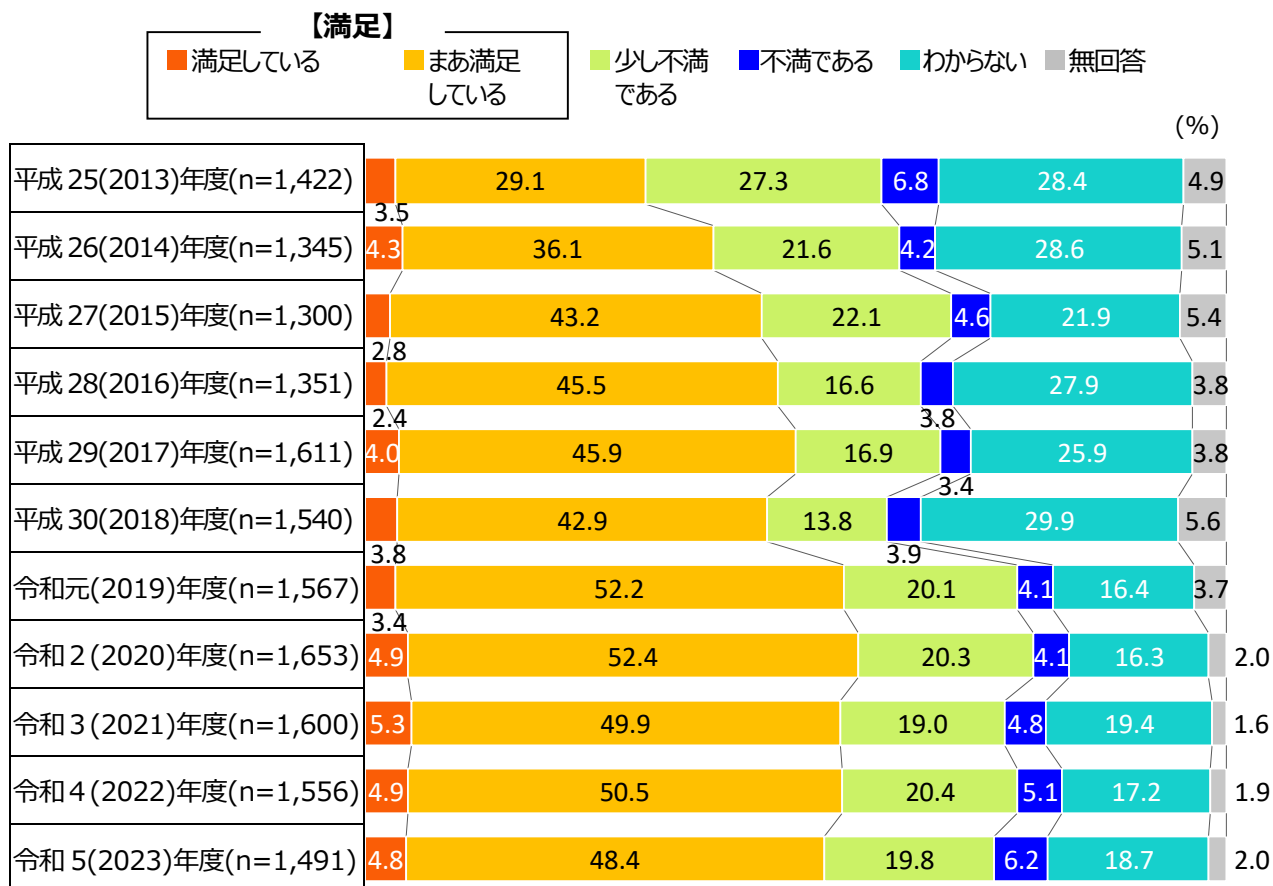
「満足している」(4.8%)と「まあ満足している」(48.4%)を合計した【満足】は53.3%であった。

【図表 21】 施策や事業の総合的な満足度



過去の調査結果と比較すると、【満足】は、5年前(平成30年度)と比較して6.6ポイント、10年前(平成25年度)と比較して20.7ポイントの増加となったが、令和元(2019)年度以降はほぼ横ばいで推移している。

【図表 22】 施策や事業の総合的な満足度(経年比較)



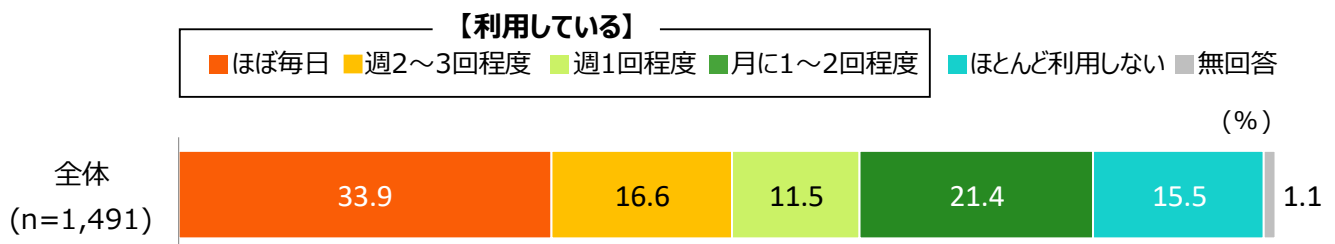
7 川崎市の都市交通について

1 鉄道の利用頻度

問 12. あなたは普段、どの程度鉄道を利用していますか。

「ほぼ毎日」が 33.9%と最も高く、「週2～3回程度」(16.6%)、「週1回程度」(11.5%)、「月に1～2回程度」(21.4%)を合計した【利用している】の割合は 83.4%となっている。一方で、「ほとんど利用しない」は 15.5%であった。

【図表 23】 鉄道の利用頻度



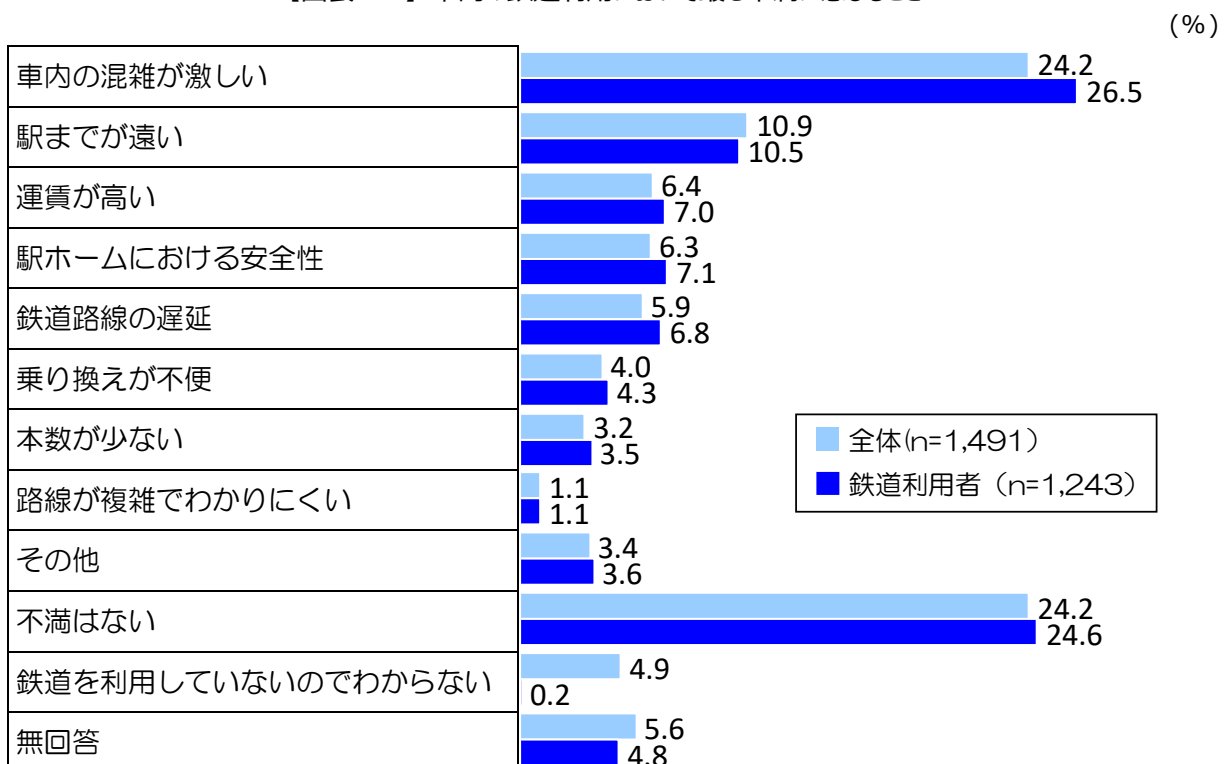
2 市内の鉄道利用において不満に感じること

問 14. 市内の鉄道の利用において、あなたが最も不満に感じている点は何ですか。

全体では、「車内の混雑が激しい」が 24.2%と最も高く、次いで「駅までが遠い」(10.9%)、「運賃が高い」(6.4%)と続いている。一方で、約4分の1が「不満はない」(24.2%)と回答している。

鉄道を【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計) 人だけについて見ても、各項目の割合や順位に大きな差は見られない。

【図表 24】 市内の鉄道利用において最も不満に感じること

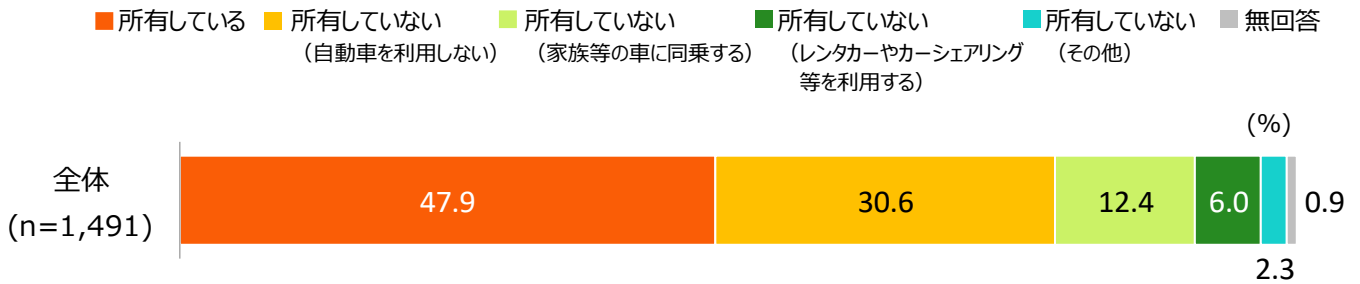


3 自動車の所有状況

問 18. あなたは、自動車を所有していますか。

「所有している」が 47.9%と最も高く、次いで「所有していない（自動車を利用しない）」（30.6%）、「所有していない（家族等の車に同乗する）」（12.4%）、「所有していない（レンタカーやカーシェアリング等を利用する）」（6.0%）と続いている。

【図表 25】自動車の所有状況

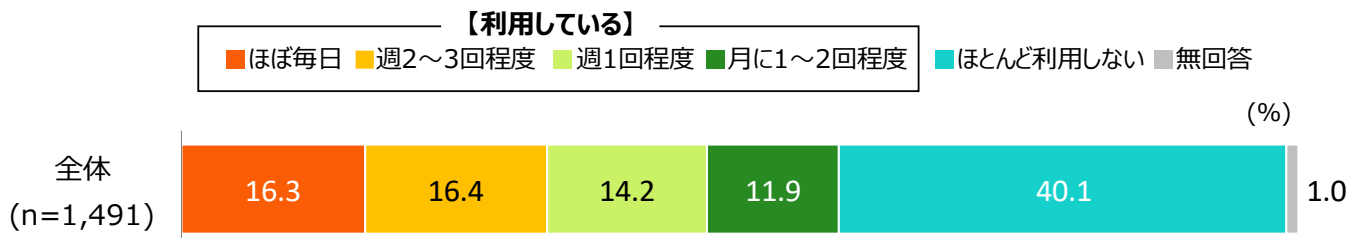


4 自動車の利用頻度

問 19. あなたは普段、どの程度自動車を利用していますか。

「ほとんど利用しない」が 40.1%と4割を占めている。【利用している】（「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計）は 58.9%であり、その内訳は「週2～3回程度」（16.4%）、「ほぼ毎日」（16.3%）、「週1回程度」（14.2%）、「月に1～2回程度」（11.9%）となっている。

【図表 26】自動車の利用頻度

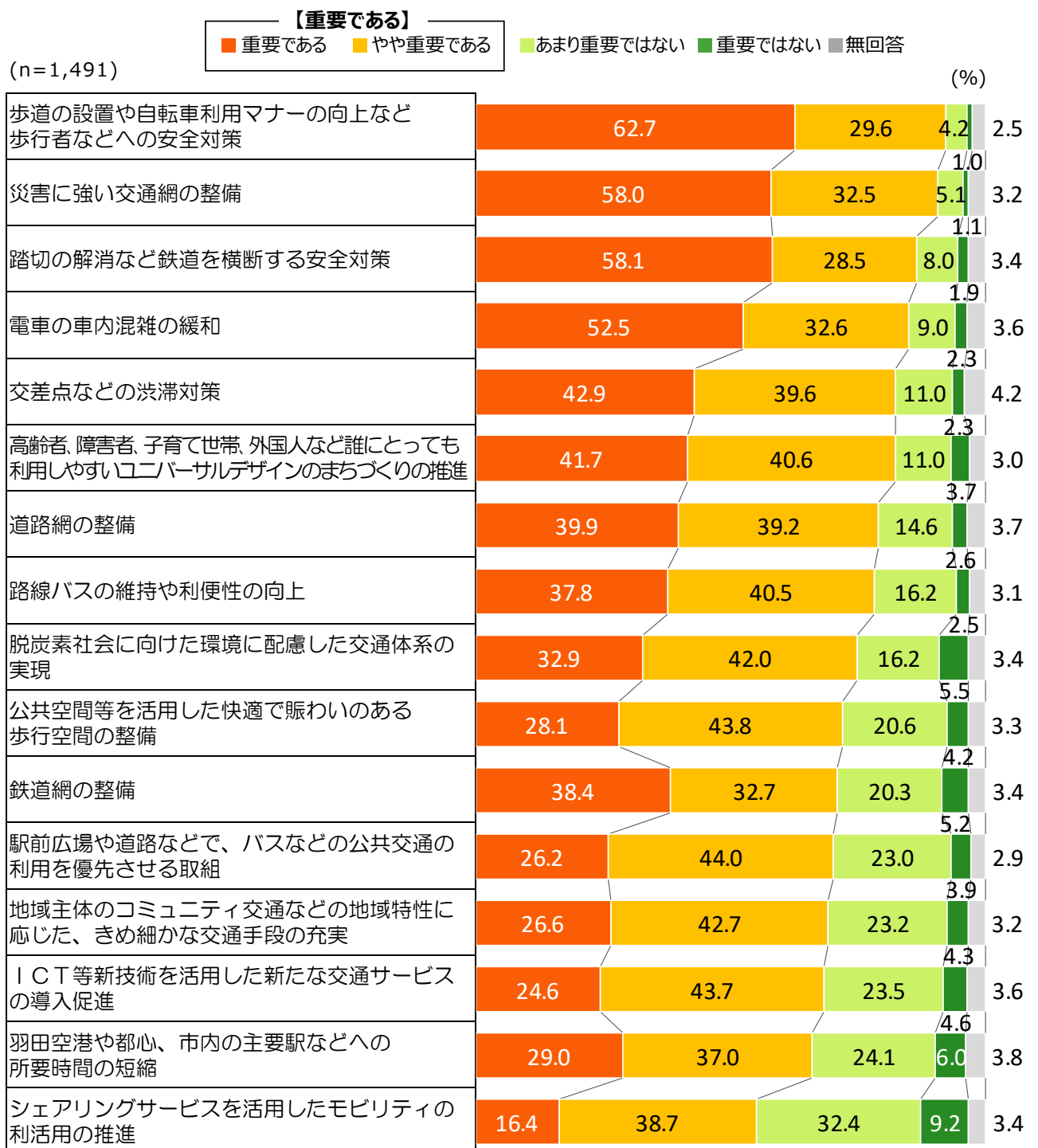


5 市の交通政策について

問 22. あなたは、今後の交通政策において、次の取組についてそれぞれの程度重要だと考えますか。

「重要である」と「やや重要である」を合計した【重要である】の割合は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などへの安全対策」が 92.3%と最も高く、次いで「災害に強い交通網の整備」(90.5%)、「踏切の解消など鉄道を横断する安全対策」(86.7%)、「電車の車内混雑の緩和」(85.1%)と続いている。

【図表 27】市の交通政策について



8 川崎市が発行する説明資料・広報等の新しい体裁について

1 デジタル機器の保有・利用状況

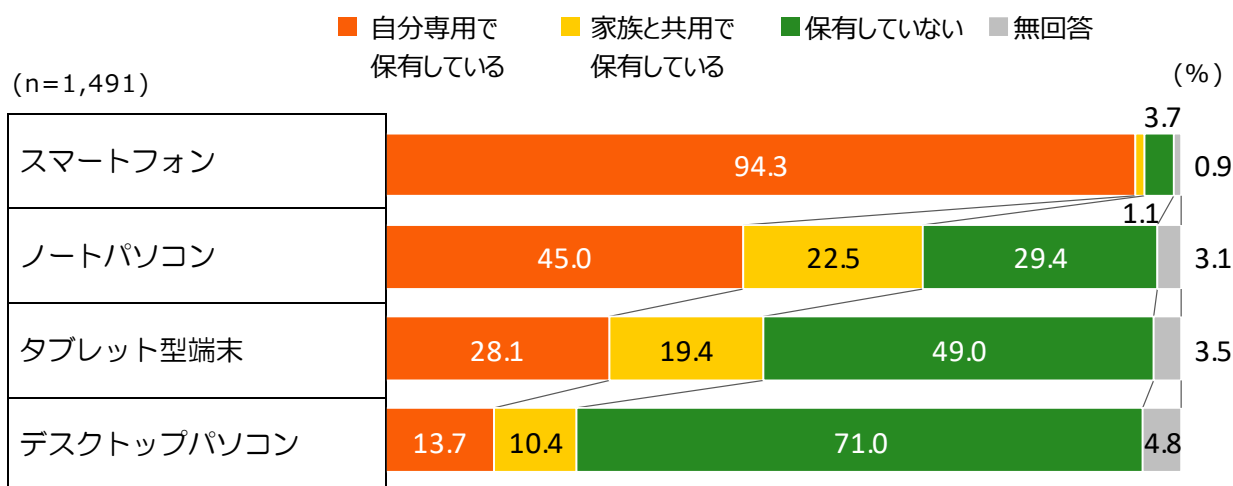
問 23. デジタル機器の保有状況、利用状況について、おうかがいします。

- ① 次のデジタル機器について、それぞれのご自宅での保有状況を教えてください。
- ② あなたがインターネットで情報収集する際に、最もよく使うデジタル機器はどれですか。

① 自宅での保有状況

「自分専用で保有している」の割合は「スマートフォン」が 94.3%と最も高く、次いで「ノートパソコン」(45.0%)、「タブレット型端末」(28.1%)、「デスクトップパソコン」(13.7%)と続いている。

【図表 28】 デジタル機器の保有状況



② 情報収集の際、最もよく使うデジタル機器

「スマートフォン」が 75.0%と最も高く、次いで「ノートパソコン」(8.5%)、「デスクトップパソコン」(4.1%)、「タブレット型端末」(2.6%)と続いている。

【図表 29】 情報収集の際、最もよく使うデジタル機器

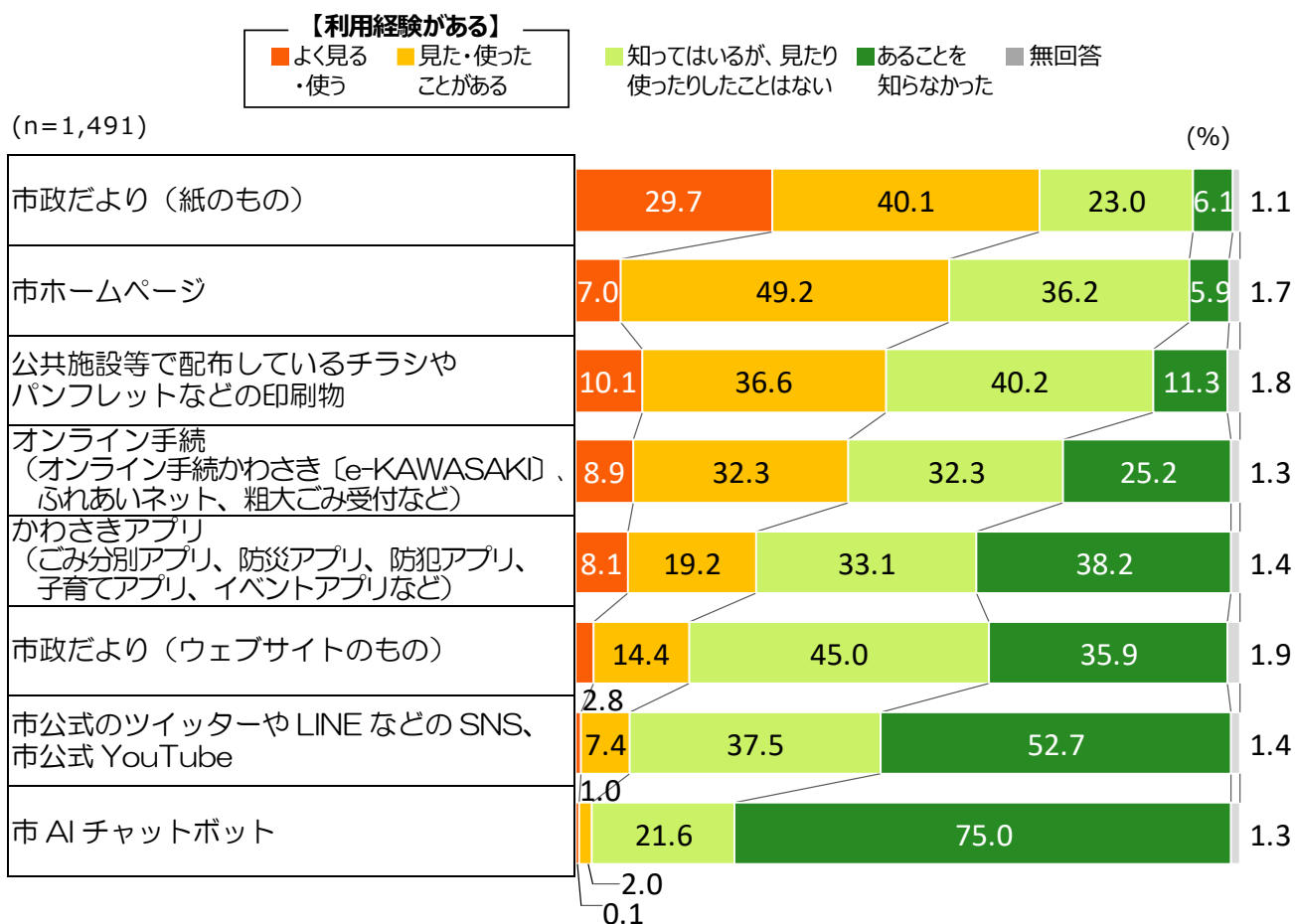


2 市の広報物や広報媒体の認知・利用状況

問 24. あなたは次の広報物や広報媒体を見たことがありますか。また、サービスを利用したことがありますか。

「よく見る・使う」と「見た・使ったことがある」を合計した【利用経験がある】の割合は、「市政だより（紙のもの）」が 69.8%と最も高く、次いで「市ホームページ」（56.2%）、「公共施設等で配布しているチラシやパンフレットなどの印刷物」（46.7%）、「オンライン手続（オンライン手続かわさき[e-KAWASAKI]、ふれあいネット、粗大ごみ受付など）」（41.2%）と続いている。一方で、「市 AI チャットボット」は「あることを知らなかった」（75.0%）が4分の3を占め、「市公式のツイッターやLINEなどのSNS、市公式YouTube」は「あることを知らなかった」（52.7%）が半数を超えている。

【図表 30】市の広報物や広報媒体の認知・利用状況

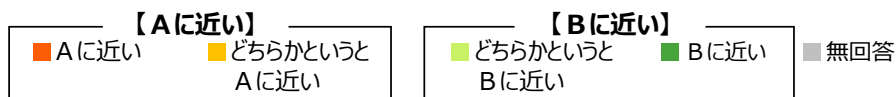


3 行政に関する情報についての考え

問 26. 行政に関する情報について、AとBの考え方ではどちらがあなたの考えに近いですか。
項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- ① 【Aに近い】が 55.1%と、「町内会の回覧板や市公式の LINE など、市が発信する情報を受け取ることで手に入れる」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。
- ② 【Bに近い】が 68.4%と、「デジタルに利便性を感じている」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。
- ③ 【Bに近い】が 57.4%と、「デジタル中心の情報提供の方がよい」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

【図表 31】 行政に関する情報についての考え



(n=1,491)

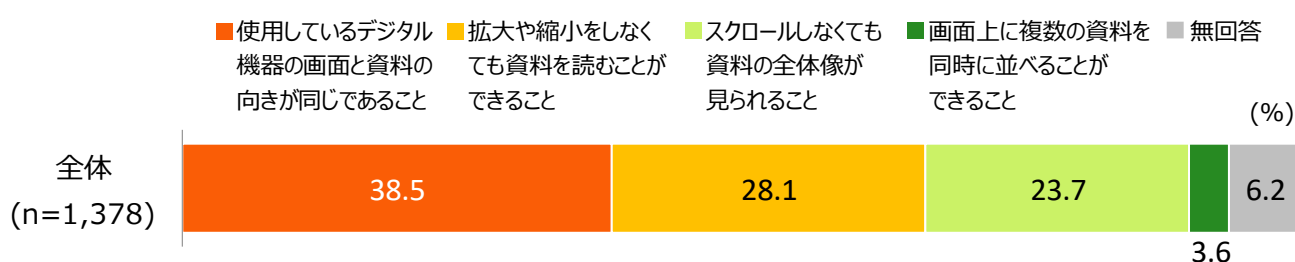
《Aの考え方》	(%)					《Bの考え方》
① 町内会の回覧板や市公式の LINE など、市が発信する情報を受け取ることで手に入れる	28.2	26.9	22.3	20.6	2.1	区役所窓口や市ホームページなどで、自ら積極的に情報を手に入れる
② デジタルに苦手意識がある	13.3	16.2	22.9	45.5	2.1	デジタルに利便性を感じている
③ デジタル中心の情報提供に不安がある	15.6	24.7	28.1	29.3	2.3	デジタル中心の情報提供の方がよい

4 デジタル機器で資料を閲覧するときに最重視すること

問 30. デジタル機器で資料を閲覧するときに、あなたが最も重要視することはなんですか。

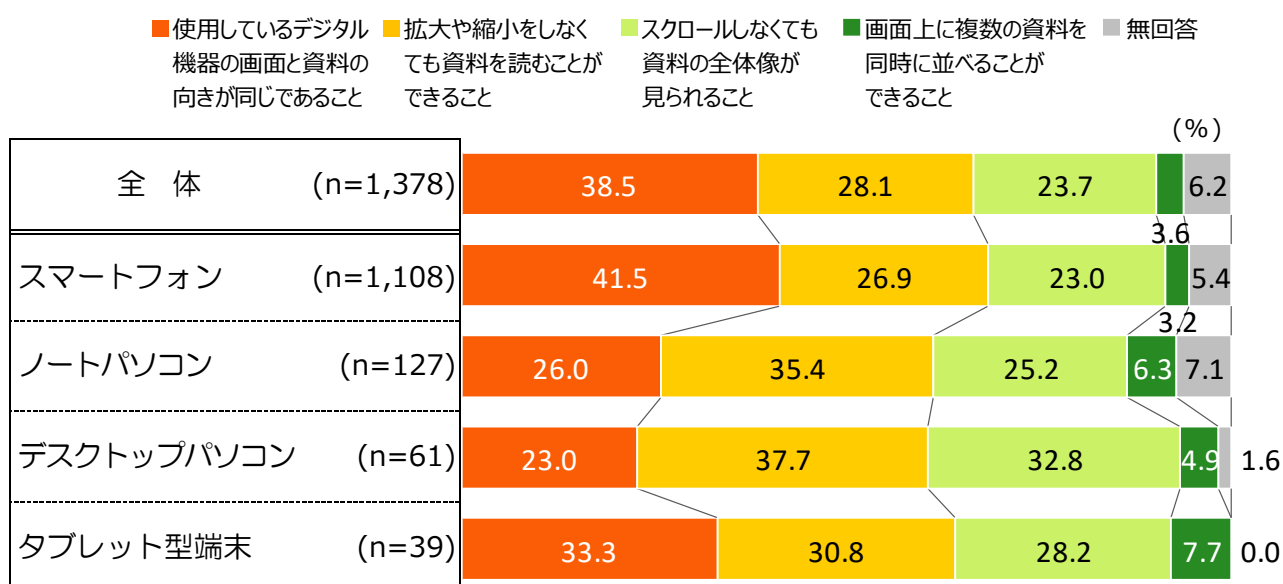
「使用しているデジタル機器の画面と資料の向きが同じであること」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「拡大や縮小をしなくても資料を読むことができること」(28.1%)、「スクロールしなくても資料の全体像が見られること」(23.7%)、「画面上に複数の資料を同時に並べることができること」(3.6%)と続いている。

【図表 32】 デジタル機器で資料を閲覧するときに最重視すること



情報収集をする際に最もよく使うデジタル機器別に見ると、「スマートフォン」と「タブレット型端末」をよく使用している人は「使用しているデジタル機器の画面と資料の向きが同じであること」の割合が最も高く、「ノートパソコン」と「デスクトップパソコン」をよく使用している人は「拡大や縮小をしなくても資料を読むことができること」が最も高くなっている。

【図表 33】 デジタル機器で資料を閲覧するときに最重視すること（最もよく使うデジタル機器別）



令和5(2023)年度 かわさき市民アンケート概要版
令和6年3月発行

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2148 (直通) FAX 044-200-0401